

江南市まちづくり会議（分野別会議） 議事要旨

会議名	平成26年度第2回 第1分科会（生活環境、産業分野）
日時	平成26年10月30日（木） 午前10時～午前12時
場所	江南市防災センター 2階 研修室3
出席者	市民委員 後藤 俊夫、藤田 泰雄、宮川 秀男、望月 晴夫、岩井 喜美子、松本 千賀子
	市職員 岩田 浩和、米田 隆彦、大岩 直文、石川 晶崇、阿部 一郎、古田 勝己、加藤 靖之
傍聴者	なし
議題	1. 前回の議事要旨について 2. 戦略計画達成状況報告書（まちづくり評価シート）について
資料	第1回まちづくり会議 議事要旨

◆ 会議結果 ◆

1. 前回の議事要旨について

- ・事務局より前回の議事要旨について説明がありました。

2. 戦略計画達成状況報告書（まちづくり評価シート）について

【柱3】 快適で便利な日常生活の確保

- ・資料4に基づき、委員（市民サービス課長）より説明がありました。

【個別目標①】 専門家による相談を受け安心して暮らしている

- ・消費生活に関する講座の出席者が多く、一般的にはすごく消費者意識が上がっている中で、相変わらず三面記事を賑わしているのは悪徳商法による被害だが、これを防ぐにはどうしたらよいか。また、悪質商法が増加し複雑化する中で、やはり地道に今までどおり継続して啓発をしていくしかないのかとの意見がありました。
- ・これに対して、消費生活事業については、広報で毎月啓発をしている。実際に江南市で被害に遭われた方もいるが、だんだん手口が巧妙化している。振り込み詐欺は、口座に振り込むことによって、警察の方がその口座を凍結してしまうので、現金が手に入らないようになってきている。今は、レターパックや小包で送るなど、手口がだんだん変わってきている。そのため、市では、今年度、高齢者向けのカルタを作り、少しでも自己啓発に努めていくようにしているとの説明がありました。
- ・先日、テレビで、各家庭の玄関の表札に、高齢者の独居は○だとか、高齢者世帯だと☆マークなど、特別な印を付け、その印を基に、悪徳商法を行う業者が多いと放映されていたが、何回も何回も同じ手口で騙されることもあるので、そういう印を付けられたら必ずきちんと消すなど、十分に周知してほしいとの意見に対して、被害に遭われた方の損害を取り返すということで、更にお金を要求して巻き上げるといような手口もあるので、引き続き広報等で啓発していきたいとの説明がありました。
- ・弁護士による相談や市民相談、行政相談などの各種相談において、市民の相談内容が行政に関する

場合や、行政の施策にある程度反映させることができる場合、相談員から、市に連絡することはあるのかとの質問に対して、行政関係の相談であれば、行政相談員が相談を受け、市の関係部署への連絡の必要性があると判断した場合、相談者の了解を得た上で、相談内容を報告している。また、その他の相談においても、行政相談員と同様、必要な場合に限り、関係部署との連絡は取り合っているとの説明がありました。

【個別目標②】 身分等が正確に記録・管理され、市民は窓口サービスを迅速に受けている

- ・指標の「戸籍訂正の件数」は、人の出入りによって届出数が増減するため、一概にその件数によって、晴れ、雨という比較はできない分野ではないかとの意見に対して、戸籍訂正の件数は、職員が優秀だからといって減るものではない。以前（昔）の戸籍というのは手書きなので、その人の書き癖によって字が変わってしまうことがあり、例えば、「吉」という漢字の上部が、「土」であったり「土」であったりするので、本人の申し出により、戸籍を直す件数が相当数ある。戸籍訂正の件数は、戦略計画の中で、一つの指標として実績値を基に評価しているとの説明がありました。
- ・以前に比べ、市職員の方の対応がずいぶん良くなって、非常に小さなことまで手際よく対応されるので非常に良いことだとの意見がありました。

【個別目標③】 市民の足が確保できている

- ・いこまい CAR の利用がかなり増えている状況の中で、4 月から料金改訂されたが、予算的にはどうなのかとの質問に対して、昨年度までは、毎年補正予算で不足分を対応していたが、今年は、お迎え料金を利用者負担にした影響により、今のところ、当初予算内で収まっている状況である。また、お迎え料金を個人負担とした理由については、市の高齢者タクシーや福祉タクシーの助成もお迎え料金は利用者負担であり、福祉施策に合わせたとの説明がありました。
- ・布袋駅から江南駅までの名鉄バスは、特に昼間について乗客なしで走っているのをよく見かける。市も名鉄に補助しているのなら、何か別の方法は考えられないのかと意見に対して、市では、交通体系検討委員会をつくって、公共交通のあり方について、いろいろな角度から検討している。どの自治体の公共交通も、デマンド型や巡回バスを運行しているが、基本的には自分で交通手段を確保しているので、なかなか利用率が上がらないのが現状である。しかし、交通手段のない方もお見えになるので、市内の公共交通のあり方は、なかなか難しい問題であり、十分な議論が必要であるとの説明がありました。
- ・今後、高齢化が進行すると、車を運転できない人も増え、免許証を返納される方も随分あるので、公共交通のあり方について十分に協議する必要があるとの意見がありました。
- ・線路東の市民の方は、名鉄バスもなく困っている方もいるのではないかとの意見に対して、その辺りも重々承知はしているが、検討する中でバス路線の増設は、非常に高額なコストがかかるので、名鉄バスへの補助を含めた費用対効果という観点から、線路の東側の方については、現在のいこまい CAR を利用していただくこと以外は難しいとの説明がありました。
- ・曾本町の方は、布袋駅まで、いこまい CAR を利用し、布袋駅からバスを利用し江南厚生病院へ行くと、直接いこまい CAR で行くよりも随分安くなるので、このような利用方法について、今度の 1 月広報で啓発する準備をしているとの説明がありました。

- ・曾本町の方は、石仏駅から江南駅まで行き、あまりいこまい CAR を利用しないと聞いたが、どういう状況なのかとの質問に対して、いこまい CAR の利用状況をデータ化しているが、曾本町の利用率はあまり高くなく、理由としては、元々駅から遠いため、概ね交通手段は、自らお持ちの方が多い。特に江南市の場合、家族で車を複数所有する方が多く、公共交通に頼って市内を活動している方は、運転免許証を返納された高齢者の方が特に多いのではないかと説明がありました。
- ・いこまい CAR の予約便では、病院への送迎が多く、利用者が増え、全部右肩上がりで晴れマークというのは、果たして良いことなのかどうか困惑する気持ちもあるとの意見がありました。
- ・高齢化が進み、高齢者や障害者の方が車に乗れなくなったときの受け皿として、いこまい CAR があるというのは、大変誇れるものである。しかし、この指標のように、どんどん利用者が増え、予算を超え、右肩上がりで増え続ける状況の中で、この 4 月からお迎え料金の利用者負担など、応分の受益者負担を取るという考え方は良いことであるとの意見がありました。
- ・これに対して、いこまい CAR の予約便は、4 月から、お迎え料金の利用者負担や運賃の 2 分の 1 の 100 円単位から 10 円単位での負担など、市の負担割合が 50%未満となるよう料金を改訂しているとの説明がありました。

〔柱 4〕 生活産業の活性化・雇用就労と商工農業の振興

- ・資料 4 に基づき、委員（産業振興課長）より説明がありました。

〔個別目標②〕 コミュニティビジネスが活発に起業され、地域のニーズに合ったサービスが地域で供給されている

- ・コミュニティビジネスに関する指標（「コミュニティビジネスを展開している事業所数」、「起業家からの相談件数」）は平成 25 年度までの指標で、平成 26 年度からは削除されているということでよいかとの質問に対して、実績値の把握が困難であったこと等の理由により、平成 26 年度からは「創業支援セミナーへの参加者数」に指標を変更したものであるとの説明がありました。
- ・コミュニティビジネスについて、公共の支援事業を提案したことがあるが、自分たちの組織だけでやろうというのは限界があり、行政にもう少し力添えをと思った。コミュニティビジネスに対する行政の機運があまりはなく、結局、自分たちだけの組織でやったが、そういう支援をするところはないかとの意見に対して、コミュニティビジネスに対する団体への支援は、産業振興課では対応できないとの説明がありました。
- ・新しいことを始めると、一つの NPO 組織でだけでやるというのは力が弱く、以前の反省を踏まえ、改めて実績をつくって挑戦していきたいが、どこへ相談したらよいかとの質問に対して、コミュニティビジネスの位置付けが非常に難しく、明確に定義的なものが分かりにくいので、どういう形で起業として進められるかによって、ビジネス、または、NPO の延長として、成り立っていくかを判断することになる。その内容によって、産業振興課又は地域協働課が担当になるので、その都度、相談をかけていただきたいとの説明がありました。

〔個別目標④〕 農業用施設が常時利用でき、農業従事者が安心して農業に従事している

- ・江南市には農業法人はあるかとの質問に対して、市内にはないが、扶桑町や名古屋市の農業法人 3 者が認定農業者として江南市内で農業をやっているとの説明がありました。
- ・柏森駅の東側に農業法人が運営している広大な大根畑があり、江南市も耕作放棄地対策として、こうした経営手法が広がると良いのではないかとの意見に対して、江南市では、今年、JA 愛知北において農業法人が設立されたところであるとの説明がありました。
- ・農業法人を起こしたい人への支援はしてもらえるかとの質問があり、市の産業振興課のほか、県にも担当部署があるとの説明がありました。
- ・地産地消の推進は、地球温暖化として二酸化炭素の発生を減らす一つ的手段だが、農業をしている方がこの地域で商品として売れるという一つの筋道をつくる必要があるのではないか。また、江南市の朝市が組織化され、市内の小中学校区ごとに朝市を月に 2 回やれば、毎日どこかで朝市がやっていることになる。朝市でなくても、夕市でも、子どもたちに自分たちのおじいちゃんやおばあちゃんが作った野菜が食卓にのるという流れを作ると良い。地産地消を簡単に言うのは難しく、家庭菜園などにより、土に親しむことを子どもたちに教えることも必要であるとの意見がありました。
- ・市も遊休農地を利用して、朝市のように自分たちの作った野菜を売れるような地域のコミュニティを作り、名古屋市などのマンションに住んでいる方を対象に、遊休農地を無償で貸し、農業に従事しながら、すいとびあ江南で風呂に入るなどのシステムをつくりながら、地産地消の推進を図り、大きな目で今後進めていけたらいいのではないかとの意見がありました。
- ・これに対して、今後、農業従事者が高齢化となり、農地が荒れ放題という形がだんだん増えてくることが予測される。市民菜園も結構な面積で拡大しているが、北部の方の申込みが多く、待ち状態になることがある。全体的には、申し込む人が少ないので、地域の特性があるのではないか。現在、江南市では、地産地消の推進ということで、特に有名な朝市として、まんだら青空市があるが、道の駅のようなものの設置について商工会議所からの要望があるとの説明がありました。
- ・国道 155 号沿いの布袋駅東に位置する五条川の辺りで道の駅を作り、そこへ地産地消の野菜を置くようにすると良いのではないかとの意見に対し、この辺りはまだ少ないが、山地の方へ行くと、地元で作った野菜を販売している道の駅が増えてきており、新鮮で無農薬だと、評判もよく、売上げも高いと聞いているとの説明がありました。
- ・道の駅は、国道沿いしか設置できないのかとの質問に対し、道の駅の設置条件として、防災拠点や国道沿いの要件があるが、そこまでではなく、市の土地で誰かに経営してもらい、昼間ずっと開店しているような組織が立ち上がってくればありがたいとの説明がありました。
- ・五条川付近の国道沿いであれば、五条川の桜と道の駅をタイアップさせると、より集客力が見込めるのではないかとの意見がありました。
- ・名古屋市民に 1 口 2 万円とか 3 万円で遊休農地を貸し、その収穫の一部を差し上げるというような観光農園を作ったらどうかとの意見がありました。

- ・道の駅は、ずっと年間を通して農産物や花を売ると、それで楽しめることができ、拠点としても活用できるのではないかと。しかし、拠点の多い朝市は、発想は良いが、高齢化による後継者問題など、もう少し考えないと非常に厳しいのではないかと意見がありました。
- ・農業従事者が減少する中で、有効な後継者対策を市はもっと真剣に考えてほしい。遊休地の問題もあるが、財政的な支援という方法だけでなく、もっとみんなが真剣に、農業に対する施策や対策を練って、事業を進めていけるようなものはないのかとの意見がありました。
- ・これに対して、農業は、肉体的にも大変で、儲からないのが現状である。しかし、長野県では、レタスだけで1年暮らせるような農業をやられている方もいる。結局、商品価値が上がって利益が上がると、野菜のブランド化が始まる。消費者の立場からすると、高いものよりも安いものの方が良い人もいるので、ブランド志向とそうでない人と二極化に分かれる。そうなると、個人経営はまず難しくなってくる。農業法人とか会社を立ち上げて、その会社が大手と取り引きできるような仕組みが必要ではないかと説明がありました。
- ・国道155号沿いに、地域おこし、農業公園と道の駅など、夢があることを考えないと、地域の活性化につながらないのではないかと意見がありました。

【個別目標⑤】 市民は地域の観光資源に親しみ、多くの観光客が訪れて、地域が活性化している

- ・今年度、藤まつりで夜のイベントをやっていたが、お客さんはどれくらい入ったのかとの質問に対して、おもてなし武将隊やオカリナ・ハーブの演奏など夜のイベントを企画したが天候に恵まれず、藤まつり期間中の来場者は延べ43万8,000人で、平成25年度の入場者数46万9,000人よりも少なかったとの説明がありました。
- ・藤まつりは会場が狭く、駐車場も少ないため、これ以上の集客は難しいのではないかと意見がありました。
- ・今年の藤は立派で見応えがあったとの意見に対して、近年は暖冬の影響か、開花時期も早く、特に平成25年度は新聞の1面に江南藤まつりの藤が掲載されて大きな反響があったとの説明がありました。
- ・今年度から、津島の藤まつりと共催で行われた目的は何かとの質問に対し、津島市の観光協会と江南市の観光協会とで観光協定を結んで、広域的な観光を推進していくものであるとの説明がありました。
- ・誘客しても駐車場が狭いとの意見に対して、藤まつりの期間中、民間の大型店舗にも駐車場を貸してもらえるように協力をお願いしているとの説明がありました。
- ・駐車場の利用料金が高いとの意見に対して、観光協会に協力している駐車場は500円で、それ以外は1,000円くらいであるとの説明がありました。